



の上を職場まで滑っていく人もあるほど。世界最大の屋内スケート場はバンクーバーにある。さらに氷上で磨かれた平たい石をボーリングのように滑らせてゴールに入れる、または近づけるカーリングも、特にカナダの中西部を中心によくみられるスポーツだ。

カーリング をしたことが ありますか。

氷でできた長さ四十メートルほどのリンクで、ボウリングをするのと同じように平たい石を投げると、滑っていくその石の進路を、両側から二人がかりでホウキ状のものをパタパタさせながら一緒に走る。テレビでご覧になった方も多だろう。これがカナダやアメリカ北部、スエーデンなどで盛んなウインター・スポーツ、カーリングだ。

これは四人一組、二チームで行う競技で、それぞれの選手が三十八ポンド（約十七キログラム）の把手のついた円盤形のみかけ石あるいは鉄（カーリング・ストーン）を標的（ティー）目掛けて投げ、四重丸の線が描かれたハウス（ゴール）に入れあう。一人が投げると、他の一人はコーチ役になり、残りの二人はスト

ンの先を走り、ストーンのコースやスピードに変化をつけてそれをできるだけゴールに近づけるようにするため、ブルーム（箒）で進路をばげしく掃く。

各選手が二個の石を相手チームと交互に投げ、二チームでつごう十六個のストーンを投げ終わると、一イニング終了したことになる。勝敗はどのストーンがゴールの中心に最も近いかで決定する。これを十ないし十二イニング続けて一ゲームが終わり、得点の多いチームが勝ちとなる。

カーリングの歴史は古く、スコットランドで一五一年と刻まれたカーリング・ストーンが発見されている。スコットランドでは、十七世紀頃、カトリック司教が安息日にカーリングをした科で罰されるほど、人々がこの遊びに熱中したといわれている。

カーリングがカナダに入ったのは一七五九年の冬だといわれる。一八〇七年にはモントリオールでカーリング・クラブもできた。現在ではカナダ全国に二千五百以上のカーリング・クラブがあつて、およそ百万人の人々がこのスポーツを楽しんでいる。毎年国内および国際選手権大会も行われている。



北海道と蓼科にも カーリング・リンク

日本へは一九六八年一月、当時ホテル・ピラ蓼科の総支配人をしていた安藤昌彦氏が初めてカーリングを紹介した。同ホテルではルールブックやカーリングの競技方法などに関する冊子を揃え、氷の状態（固くてドライで、平らなのがよい）をみて従業員を中心に楽しんでいるという。また北海道の中川郡池田町では、駅前にある総合体育館構内に屋外カーリング・リンクを作っており、十二月中旬に完成する予定。日本にも小規模（二コース）ながら、本格的なリンクが誕生することになったわけである。